

## 研究・調査報告書

|   |               |
|---|---------------|
| 報告書番号   | 担当            |
| 6 5   | 独立行政法人酒類総合研究所 |
| 題名 (原題/訳)   |               |
| Cancers of the esophagus and carbonated beverage consumption: a population-based case-control study.<br>食道ガンと炭酸飲料の摂取：住民を対象とした症例対照研究   |               |
| 執筆者   |               |
| Ibiebele TI, Hughes MC, O'Rourke P, Webb PM, Whiteman DC; Australian Cancer Study.  |               |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日)   |               |
| Cancer Causes Control. 2008 Aug;19(6):577-84.   |               |
| キーワード   |               |
| 食道ガン、炭酸飲料、ビール   |               |
| 要 旨   |               |
| <p>炭酸飲料摂取の増加が食道腺ガンの危険因子の 1 つと仮定されている。これを支持する証拠はないが、炭酸飲料の低 pH (2.35-4.19)、胃酸分泌の促進、下部食道括約筋の静止圧と長さの減少による胃食道逆流の促進がこの説の根拠となっている。この研究では、住民を対象とした症例対照研究で炭酸飲料摂取と食道の腺ガンと扁平上皮ガンリスクとの関係を調べている。食品の摂取頻度の質問票を用いて、炭酸飲料やビール摂取についてのデータを集めた。また、1484 名の対照者、294 名の食道腺ガン (EAC) 患者、325 名の食道胃接合部の腺ガン (EGJAC) 患者、238 名の食道扁平上皮ガン (SCC) 患者から、自己記入質問票を用いて人口統計、社会経済、生活様式に関連した情報を集めた。無条件多変量ロジスティック回帰分析でオッズ比 (OR) と 95% 信頼区間 (CI) を計算し、交絡因子で調整を行った。この結果、炭酸飲料の多量摂取と EAC (調整 OR=0.94、95%CI 0.53-1.66、<math>p=0.85</math>)、EGJAC (調整 OR=1.07、95%CI 0.67-1.73、<math>p=0.89</math>) では相関が見られなかったが、SCC (調整 OR=0.40、95%CI 0.20-0.78、<math>p=0.04</math>) とは逆相関が見られた。また、ビールの多量摂取と EGJAC (調整 OR=0.53、95%CI 0.35-0.81) には逆相関が見られ、SCC (調整 OR=1.86、95%CI 1.17-2.95) とは正の相関が見られた。少量～中程度のビール摂取者と比較し、ビールの多量摂取者で低アルコールビールよりもレギュラービールを好む傾向が強く、ビールの EGJAC への影響が炭酸による逆流症状によるものという証拠はなかった。以上より、高度の炭酸飲料摂取は食道腺ガンや扁平上皮ガンリスクの上昇には関係がないものと考えられた。</p> |               |